

「人の感動に、貪欲。」をコンセプトに、さまざまな企業のイベントプロデュースを行う Backbone 社のプロジェクトの裏側をお伝えする「BACKBONEDetails」。第一回目の今回は、HR 事業を軸に展開する H 社の高橋さんと矢口さんをお迎えし、2023 年 3 月に実施された運動会の反響を振り返っていただきました。

L 矢口大輔 コーポレートデザイン室 人財戦略グループ R 高橋陸史 ITプロパートナーズ事業部



事業部間の壁をなくす コミュニケーションの場として

運動会を実施されたいと思われたきっかけからお話いただけますか？

矢口 最初にアイデアを出したのは弊社の人事担当でした。過去に実施した経験があったのが大きいのですが、組織のコンサルティングや人事の経験を通して、会社でイベントをやることの意義を感じていたようです。同時に、弊社は昨年から新卒採用に力を入れていて、スタッフはかなり増えたタイミングでもありました。

高橋 スタッフの人数が 100 名から 130 名ぐらいに伸びたフェーズだということもあり、事業部ごとに壁ができてつづつあるのを感じていました。みんな業務に対して真面目なので横のつながりもなく、会社としての統一感を出すためにも、活発なコミュニケーションが生まれる場が必要だったんです。

最初の打ち合わせから「本気でやりたい」とおっしゃっていらっしゃいましたね。

高橋 そうですね。何でも熱心した方が楽しいので、本気でみんなが楽しめるような企画を一緒に考えさせていたのだと思います。

隔週で打ち合わせを実施させていただ

きました。が、弊社が担当する分の内容の整理と、なにをいつまでに用意するべきなのかをスケジューリングいただき、スピーディーに進めていただいた印象です。Backbone さんは実績が豊富なので、過去に盛り上がった競技の事例をたくさんお聞かせいただき、こちらがやりたいアイデアを具体化するためサポートをしていただきました。



「選手」「応援」のバランスを考えた、盛り上がるための コミュニケーション設計

運動会を実施されるとアナウンスされた際、御社内の反応はいかがでしたか？

矢口 実際のところ、みんなが最初からポジティブだったわけではないかなと思いますね。

高橋 「…運動会うはあ」という反応のメンバーもいましたね。どんな感じなんだろうって、みんな最初は腰が重くて。でも、蓋開けてみたらみんな楽しそうで（笑）、当日はかなり盛り上がっていたと思います。

活発なコミュニケーションを生むことが今回の目的だったので、本番当日の進め方も含めて、御社に合わせた設計をさせていただきました。印象的だった競技は何でしたか？

高橋 綱引きはめっちゃ楽しかったです。僕のチームが一位だったからというのがありますが（笑）。

Backbone 社さんからの提案で、綱引きを当日発表のシークレット競技にした上で、出場するメンバーをお昼休みの間に決めてもらったことも、盛り上がりへの準備としてよかったと思います。チームで話し合うプロセスが設計されていたことで自然とコミュニケーションの時間が生まれましたし、決勝までに出場メンバーを重複してはいけないうーナメント制としてのルールもあったので、メンバーで戦略を練る楽しさがありました。

競技の前に本気でコミュニケーションを取る時間をプログラムとして設計することで、より一層の盛り上がりが生ま



れる工夫をさせていただきました。
選手として出場される方々がヒート
アップされるのはもちろんなんですが、
当日の盛り上がりは「応援」によって
生み出されるもので、「選手」「応援」
がバランスよく盛り上がるための提案
をさせていただきました。

高橋 事後アンケートでは、リレーに
ついて書いている人が多かったです。
最終走者がゴールテープを切るのがほ
ぼ同時で、すごい盛り上がりでしたね。

H社様が、事前に内定者を含む全社員
の方々の運動の得意／不得意を把握さ
れた上でチームを構成されていたから
こそ、これだけ拮抗したリレーになっ
たのではないかと思います。弊社から
も、世代をまたいだチーム構成を提案
させていたでいたので、結果的に
これだけドラマチックな展開を生むこ
とができたのだと感じています。

高橋 仕事とはまた違う、みんなが本
気になっている姿を見られたのが印象
的でした。チームは事業部を跨いだメ
ンバーで構成していましたが、これか
らも関係が続くような新たなつながり
が生まれていたと思います。会社に一
体感を生む一つの手段として、運動会
は有効だなと実感しました。

Backbone 社さんは運動会を実施して
きた数が多いので、手慣れているから
こそその安定感がありましたし、当日は
スタッフの方々のオペレーションがと

ても細かく、不自由なく進行いただい
ている安心感がありました。

次につながる コミュニケーションの創発

その後の反響はいかがですか？

高橋 アンケートでは「事業部や年齢
の異なるメンバーとの一体化が生まれ
て良かった」「みんなでひとつのことに
本気で取り組んだことで絆が深まりま
した」などの声があり、好評でしたね。

終了後はチームごとで打ち上げをし
たんですが、さっそく「今度このチー
ムでバーベキューに行こう！」みたい
な話が生まれ、次につながった感覚が
あります。内定者にも参加してもらっ
たので、入社前にお互いを理解できる
機会にもなりました。

矢口 ポジティブな結果しかなかった
ので、やってよかったんじゃないかな
と思いますね。やる前は微妙な反応だ
ったメンバーからも、「実際にやってみ
たらよかった」という声がたくさんあ
りました。

弊社のオフィスはワンフロアなんです
が、違う事業部のデスクにも行きやす
くなった雰囲気がありますし、以前よ
り垣根を越えたコミュニケーションが
生まれやすい土壌ができたのを感じ
ています。これからなにかとイベント

は実施していくので、次の盛り上がり
につながるんじゃないかなと。二回目
もぜひやりたいというのはほぼ社内
で決まっているので、また来年も願
いできればと思っています。

御社のプロジェクト推進メンバーは
自主的に集まられた方々でしたし、前
段階から盛り上がるための施策を実
施されていたのが、こちらとしても
刺激的でした。当日までにみなさん
がチーム内で仲を深められていた
のが、今回の満足感につながった
のではないかと思います。

高橋 一回目が本当にいい会だ
ったので、それを超えていけるよう
な二回目、三回目を一緒ににつく
っていかれたらと思います。
来年以降もよろしく願
います！

